


# 審査結果報告書

平成 25 年 9 月 3 日

主 査 氏 名 三枝 信 

副 査 氏 名 早川 和重 

副 査 氏 名 佐野 馨 

副 査 氏 名 堀口 利之 

1. 申請者氏名 : 竹田 昌彦

2. 論文テーマ : Papillary thyroid carcinoma with heterotopic ossification is a special subtype with extensive progression

(異所性骨化を伴う甲状腺乳頭癌は広範な進行を呈する特殊な亜型である)

3. 論文審査結果 :

甲状腺悪性腫瘍における超音波検査や CT などの画像診断では、腫瘍内の石灰化が悪性を疑う所見とされている。一方、術前の画像診断で石灰化が確認された甲状腺乳頭癌摘出検体で、腫瘍組織内に異所性骨化を認めることがあるが、その臨床的意義に関しては殆ど検索されていなかった。申請者は、甲状腺乳頭癌を骨化、結節状線維化の有無から 3 つの亜型に分類し、その意義及びメカニズムについて検討した。その結果、骨化や結節状線維化を伴った群は、骨化も結節状線維化も認めない群に比して、リンパ節転移、脈管侵襲、腺内転移、腺外浸潤において有意に頻度が高いことが明らかになった。また、骨化あり群の腫瘍細胞は、異所性骨化や腫瘍間質の線維化を促進される BMP-2 や bFGF と、血管新生に関与する VEGF を他の群より有意に高く発現していることが明らかになった。公開審査では、申請者は主論文の内容について約 30 分にわたり詳細な発表を行い、その後の審査員からの多種多様な質問についても適切に答えることができた。質疑内容の主な点は、①腫瘍内骨化と石灰化、及び腫瘍の組織学的分化度との関連性、②症例の抽出法、③免疫染色結果の評価法、④腫瘍と間質の相互関連性、などであった。審査員は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから、医学博士の学位に十分値する判断した。